



「習慣は、第二の天性にしてその力 天性に倍す」

校長 牧野 光 洋

芸術の季節となりました。全校児童が学芸会に備えて一生懸命に練習そして準備に余念がありません。素晴らしい学芸会になると今からワクワクしています。

さて学芸会の準備も次第に盛り上がりを見せていますが、表題に触れてみます。先天的に生まれもった性質、性格を天性と言います。スポーツや芸術などで才能が有るかとか無いとかいうのはこの天性を指すようです。しかし、実際には私たちの性質の大半は、後天的な「学習」によるものです。一般に私たちが自己の天性のように思いをなしている自分の性質は、その殆どが「習慣」によるものです。生まれてからこの方、どのような習慣を身につけてきたかによって私たちの性質や人格、能力が決まるといっても過言ではありません。



「習慣」というものが、いかに重要で大切であるかを再認識する必要があります。換言すれば毎日の習慣を変えられることができれば、自分の性質や性格をいくらかでも向上させることができるわけです。「私の癖ですから、仕方がないんです。」と仰る方がありますが、生まれた時には、そのような「癖」はもっていなかった筈。「癖」とは「習慣」のことです。いくらかでも直すことができます。一番大切なことは、悪い習慣を止めて、良い習慣を身につけようとする強い意志＝やる気＝をもち続けるかどうかと思います。



良い習慣、善い行いを身につけて毎日を過ごすことが理想ではないでしょうか。日々皆さんにお話ししている心優しい言葉で、心安らかに生活できることが最高です。特に小学校の時代には、「素直でやさしい人」に育つよう思いやりの習慣を身につけさせたいものです。

それには大人たちが思いやりを、「口で教え」「行動で示して」見せねばなりません。これこそ昨今社会で起こっている悲しい事件が減ることを願う私たち大人のぜひとも実行に移さねばならない使命と感じます。

学芸会の練習は、みんな一生懸命です。ぜひ美しい言葉で応援してあげたいものです。